

from Dahlström' catalog

成立について：フィルハーモニー協会交響楽団が1900年パリ万国博覧会を訪問する予定が決まった時点で、1900年3月13日アクセル・カルペラン（署名「X」）は、JSがパリ第1回演奏会のために序曲を作曲する予定があるのかどうか訊いている。（スウェーデン語？）[序曲には「どうにかして絶対に」、しっくり来るような表題を付けるべきです。ルービンシュタインは1889年パリ博覧会のロシア演奏会のために、完全にロシアのモチーフだけを使って演奏会第1曲目の幻想曲を書き、『ロシア』という題名をつけました。貴殿の序曲なら、さしずめ『フィンランディア』という題名になるのではありませんか？]（Taw1994年、130ページ）。JSは新しい作品は作曲せずに、『新聞祭典のための音楽』からフィナーレを修正して用いた。

作品名について：1900年7月2日、改訂版は初め『スオミ』という曲名で、ヘルシンキにおいて上演された。1900年の巡回公演期間中、この作品は『祖国』という題名が付いていた。しかし1900年11月にピアノスコアがHNMより『フィンランディア』という題名で出版された。以来この題名が定着したことは、早くも1901年2月10日、ヘルシンキにおけるフィルハーモニー協会交響楽団のプログラムからもうかがわれる（「ポピュラーコンサート」、ロベルト・カヤヌス指揮。1901年2月10日付プログラム）。バルト諸国において『フィンランディア』という題名は、遅くとも1903年までには帝政当局により禁じられた。これらの国々では、たとえば1903年5月17日、カタリーネンタール（レヴァルのカドリオルグ）の「シュネーヴォイクト交響楽団」演奏会におけるイエオリ・シュネーヴォイクトの例に倣って、題名は『即興曲』と変更されることが多かった（プログラム断片：NatF/SibFam；Taw1972年11ページ；JSのリガ演奏会についての対談、Hufvudstadsbladet 1904年8月4日；1939年11月18日付社会民主党新聞イエオリ・シュネーヴォイクトのインタビュー）。

初演：1900年7月2日。ヘルシンキ、市民消防団ホール。パリに向けて出発前のフィルハーモニー協会交響楽団第2回送別演奏会。ロベルト・カヤヌス指揮。
レコード初録音（短縮して）：1909年。「新交響楽団」ランドン・ドナルド指揮。グラモフォン 040718。

演奏について：1930年JSはB&Hに宛てて次のような手紙を書いている。『フィンランディア』がポケットスコアとして出版されるのであれば、中間部変イ長調の旋律に対して、 $M. M. 1/4 = 104$ と記したいのです。この箇所はいつも遅すぎるテンポで演奏されるものですから（JS：B&H 1930年12月22日。B&H, Wb, B 90）。しかしポケットスコアは、1930年10月にすでに出版されていた（下記参照）。

自筆譜：スコア断片、UBHels 0842。

出版について：出版契約（フィンランディア、オーケストラ作品、[以下、後に補足]作品 26 第 7 番)JS/HNM 1900 年 11 月 23 日 (NatF/SibFam; B&H, Wb)。JS はライプチヒに向かう途上、おそらくはベルリンで、校訂版スコア用版下を失くした。ヘルシンキの写譜師に宛てた 1900 年 11 月 2 日付の書簡には、次のように書かれている。レリッヒ様！ この騒ぎを想像してください！ *Patrie*（祖国、ご存知でしょうか）のスコアが奪われてしまったのです。これを印刷しなくてはなりません—さて、どうしたものでしょうか。お手伝いをお願いしますか？ 図書館にあるパート譜からスコアを書き起こしていただけますか？ そうしていただけますと、非常に助かります (SibMus)。そして新しい版下が出来上がった。版權と印刷版は 1905 年 7 月 20 日に B&H が入手した (ファツェル 1905 年)。

初版：ヘルシンキ、ヘルシンキ新音楽出版社 ファツェル&ヴェスターレント、1901 年 3 月 (B&H, Wb, カード目録)。スコアおよびパート譜。

スコア：Ed.番号および Pl.番号：Part. Bibl. 1781。表紙、26 ページ (楽譜本文 2~25 ページ)。26.5 × 33 cm。

表紙ページ：ジャン・シベリウス／フィンランディア／(スウェーデン語?)／(フィンランド語?)／管弦楽のための交響詩／スコア／オーケストラ・パート譜／ピアノ編曲／ヘルシンキ／ヘルシンキ新音楽出版社／ファツェル&ヴェスターレント／ブライトコップフ&ヘルテル、ライプチヒ。

2 ページ、表題：フィンランディア。／ジャン・シベリウス。

2 ページ、下部：ヘルシンキ新音楽出版社、ヘルシンキ。製版・印刷 ライプチヒ・ブライトコップフ&ヘルテル。

SibMus 所蔵譜の表記：アクセル・カルペラン。

改題版：

1. B&H, Lpz 1905 年 12 月。(LC 1950 : W. ドウツゲ校訂。) Part. B. 1781。作品番号：26 第 7 番。

2. B&H, Wb 1953 (HJv 1955)。PB1781。1965 年以降の再版は番号変更：PB 4936。USA、EFK、LML にて再版。

パート譜：OB 1618、OB 4936。

USA、EFK、LML にて再版。

研究用スコア (ミニチュアスコア) 初版は 1930 年 10 月に B&H, Lpz (B&H, Wb, カード目録) より出版された。PB 3318。

ピアノスコア

214 [240] 小節(9')。

成立時期：[1900 年秋]。

レコード初録音：1987 年。エリック・T・タヴァッセルナ。BIS CD-366。早くも 1909 年にはエオリアン・カンパニーより、自動ピアノ用ロールが出版されていた。(LC 1950) 1927 年にはリヒャルト・ジンガー演奏のヴェルテ・ミニョン録音 (Welte-Mignon No. C-7715) が登場した (LC 1950)。

自筆譜：浄書 (版下)。フィンランディア。UBHels 0843。

初版：ヘルシンキ新音楽出版社 ファツェル&ヴェスターレント、1900 年 11 月 (ファツェル、カード目録。WCMF)。Pl.番号なし。表紙、14 ページ (楽譜本文 3~13 ページ)。26.5 × 33 cm。

表紙ページ：ジャン・シベリウス／フィンランディア／(スウェーデン語?)
／(フィンランド語?)／管弦楽のための交響詩／ピアノ編曲／ヘルシンキ／ヘルシンキ新音楽出版社／ファツェル&ヴェスターレント／ブライトコップフ & ヘルテル、ライプチヒ。

3 ページ、表題、出版社および印刷所に関する備考：スコアを参照のこと。

Pl.番号 H. N. M. 30 のついた再版も存在する。

改題版 (作品番号なし)：B&H, Lpz/HNM ファツェル&ヴェスターレント。

Pl.番号なし。

改題版 (作品番号あり) (一部)：

1. B&H, Lpz 1905 年 (B&H, Wb, カード目録)。Pl.番号：Klav. Bibl. 25180。
2. B&H, Lpz 1907 年 11 月 (B&H, Wb, カード目録)。Ed.番号および Pl.番号：V. A. 2415。
3. B&H, Lpz。Ed.番号：EB 2415。Pl.番号：V. A. 2415。フィンランドで著作権利用許可を得た版も確認されている。
4. アラン社、メルボルン [1933 年頃]。Pl.番号：B. 5564。
5. BCMA、ロンドン、1940 年 (BL 1980)。
6. B&H, Wb／ファツェル、H:ki/MH、オスロ／ENG、Sthlm/EI、Kph (ビクタープレス (ノルウェー語?)、オスロ 1952 年)。Ed.番号：F. M. 3203、NG 2406、I. 368-2、M. H. 1207。Pl.番号：V. A. 2415。Ed.番号 R 03203-7 のついた再版も存在する。
7. B&H, Wb 1952 年 (HJv 1953 年)。Ed.番号：EB 2415。Ed.番号 EB 7910 のついた再版も存在する。

その他の版 (一部)：

1. カール・フィッシャー有限会社、ニューヨーク 1942 年 (LC 1950)。上装版。2298。Pl.番号：29352-11。14 ページ (楽譜本文 3~13 ページ)。23×30cm。3 ページ、表題：フィンランディア/J. シベリウス、Op.26, No. 7/編纂・校訂・

修正／マックスウェル・エックシュタインによる

3 ページ、下部：ニューヨーク・カール・フィッシャー有限会社が 1942 年版権取得

2. セオドア・プレッサー社、ペンシルヴァニア。番号：26998。14 ページ（楽譜本文 3～13 ページ）。23.5×31cm。

3 ページ、表題：フィンランディア／ウィリアム・ホドソン編纂／ジャン シベリウス、*Op.26 No. 7*。

3 ページ、下部：アメリカ合衆国にて出版

3. G. シャーマー有限会社、ニューヨーク [1950 年]。Pl.番号：32594。14 ページ（楽譜本文 3～13 ページ）。23×30cm。

3 ページ、表題：フィンランディア／ジャン シベリウス。*Op.26, No. 7*。

3 ページ、下部：G. シャーマー有限会社／アメリカ合衆国にて出版／[…]

曲集：エドワード・E. マーク・ミュージック・コーポレーション、ニューヨーク 1940 年。『シベリウスおよびその他の有名なフィンランドの作曲家たち』3～13 ページ。1900 年の版画。

賛歌、男声合唱版

ヴァイノ・ソラ作詞

2 節：24 [48] 小節(2')。

歌詞：ヴァイノ・ソラ作詞フィンランディア。タイプ打ち。UBHels Coll 206.36。

成立時期および成立地：1938 年 4 月 4 日、ヤルヴェンパー（ヴァイノ・ソラによる写し。アイオワ・メーソン図書館）。

成立について：フィンランディア賛歌の歌詞は、以前 1907 年にヤルマリ・フィンネが作詞しており（SKS, 602: 147: FR 173）、1919 年にはフィンランドからの移民であるユリエ（ジョージ）・シェブロムが（歌詞冒頭：*Oi Luoja suuri, päivän suo jo koittaa, ...*）アメリカ合衆国で作詞していた。フィンランドのオペラ歌手、ヴァイノ・ソラは、1920 年代アメリカに滞在中、シェブロムの歌詞で賛歌を聴いたのかもしれない。交響曲『フィンランディア』は国の象徴として非常に価値があり、フレドリク・パーシウスが作曲したルーネベリの国歌『Maame-laulu / Vårt land』は、すべての人々に受け入れられてはいなかったため、1937 年ヴァイノ・ソラは、『フィンランディア賛歌』にふさわしい歌詞をつけて国歌として認めるよう提案したが、実現されなかった。合唱指揮者ヘッキ・クレメンティらが彼の提案に反対した。—新しい国歌を提案するためか、それともフリーメーソンで用いるためか、ヴァイノ・ソラは『フィンランディア賛歌』に作詞し、1937 年 2 月 JS に送った（WS: JS 1937 年 2 月 4 日。UBHels

Coll 206.36)。WS が歌詞を改訂した後、JS は賛歌を男声合唱用に編曲した。この合唱版は JS の訂正と共に、WS の写しにより継承されてきた。歌詞冒頭：第1節 (以下フィンランド語)[または:(以下フィンランド語)]…第2節 (以下フィンランド語) … (SibMus)。WS が歌詞をもう一度修正した後、賛歌はとくにフリーメーソン運動において広まった。歌詞冒頭：(以下フィンランド語) …—ユリエ (ジョージ)・シェブロムは 1938 年に JS を訪ね、『フィンランディア賛歌』はアメリカ合衆国で、さまざまな歌詞をつけて歌われる機会が多いと伝えた。これに対し JS は次のように答えた。(以下フィンランド語) [あの曲は歌うために書いたわけではなく、オーケストラ用に作曲したのだが、人々が歌いたいのであれば、どうしようもないじゃないか] (シェブロム、G 1945)。

初演：

a) (非公開)。1938 年 4 月 21 日。ヘルシンキ、「P. Johannes Loosi」[聖ヨハネロッジ] 10 周年記念式典。歌唱：ヴァイノ・ソラ、マルッティ・シミラ、スロ・ライッケネン、O・A・トゥルネン、ゲザング、ハーモニウム：アルヴィ・カルヴォネン (合唱声部演奏)。